



式辞
葛巻町長 鈴木重男

50年に1度と言われる一大事業に、町民の皆様をはじめ議会並びに関係各位のご理解とご協力に感謝します。新庁舎は「利用しやすく親しまれる庁舎」「効率的な行政運営が行える庁舎」「防災拠点となる庁舎」「まち場再生を先導する庁舎」「環境にやさしい庁舎」の5つの基本方針を掲げ、「葛巻らしさ」にこだわり地域特性を活かした施設です。利便性の向上と交流人口、関係人口の拡大を図り、これまでも増してきめ細やかな住民サービスに努め、職員一丸となって町民の皆様の期待に応えるよう取り組みます。

新型コロナウイルス感染症や物価上昇などによる経済の低迷など、社会情勢が大きく変わろうとする中、「逆境の時こそ大きなチャンスをつかめる好機」と捉え、持続可能なまちづくりをより一層推進します。



完成した新庁舎の前で行われた開庁式

まちの新たな交流拠点へ 葛巻町新庁舎 **くずまゐる** 開庁

「くずまゐる」は「葛巻に人が集まる、町のさまざまな機能が集まる」という意味がこめられた愛称です

待望の葛巻町新庁舎が完成を迎え、11月1日に町内関係団体の代表者や自治会長など約130人が出席して開庁式が行われました。

新庁舎は、平成30年6月に策定した「新庁舎建設基本計画」に基づき、令和2年12月に着工。事業費は総額約37.9億円で、公共施設等整備基金や過疎対策事業債などを活用して整備しました。コンパクトシティの視点を取り入れた新庁舎は、行政・交流・商工・金融の機能を併せ持ち、葛巻らしさ（ミルク・ワイン・クリーンエネルギー・林業）を演出する町のランドマークとなります。今後、2期工事として新庁舎の西側に大屋根広場や盛岡中央消防署葛巻分署を整備する予定で、平成29年に完成した葛巻病院（医療機能）と併せて「求心性のあるまちの賑わい創出」を目指します。

各エリアの愛称が決定 親しまれる拠点施設へ

開庁式では、新たな「まち」の拠点愛称選考委員会の広田純一委員長が、決定した5つの愛称をビデオメッセージで発表しました。全国からの応募527点から「賑わい」「親しみやすさ」「人を受け入れる」などの要件を満たす愛称が選考され、



開庁を祝うテープカット（左から）中村哲雄町民憲章推進協議会会長、工藤勝博県議会議員、千葉広泉議会議員、鈴木重男町長、高宮一明町議会議員、觸澤義美副町長、鹿崎良宏教育長

①拠点エリア・庁舎棟は「くずまゐる」、②2期工事で整備予定の大屋根広場は「びっくテラス」、③多目的ホールは「まき×まきホール」、④2階の図書・サロン・勉強カフェは「まなベース」、⑤1階のフリースペースは「ふり〜じゅ」に決定しました。引き続き、出席者は葛巻ブラスの生伴奏に併せて町民歌を斉唱。続いて町民歌をアレンジしたファンファーレでテープカットが行われ、新庁舎は多くの人が集う拠点施設として開庁しました。なお、新庁舎では11月7日から業務を開始しています。



町の恒例行事「トリプルまきフェスタ」の「巻」、「牧」、「薪」から発想。木をふんだんに使ったホールで、「×」を使用することで印象をユニークに（2階・3階）



「びっく」で大屋根のイメージを、「テラス」でエントランスとしての雰囲気表現。シンプルに、分かりやすく親しみが持てるように（2期工事で整備予定）



床や壁面に町産木材を使用し、町民が自由で気軽に利用できる憩いのスペース。「フリー」と「樹木」を合わせた造語で特徴を表現（1階）



子どもから大人まで、多くの町民が学びを広げる拠点となるスペース。特に図書室を利用することが多い児童生徒になじみやすい愛称に（2階）